

「オランウータンの危機」

庭窪小学校 五年 石川 瑛博

「子どもたちにフィールドワークのおもしろさが伝わる本を執筆した」と、著者久世濃子さんはあとがきで言っている。僕はオランウータンについて調べてみることにした。すると関西では、王子動物園だけが飼育していることがわかった。本の中でも、大学院生だった久世さんが、研究室の幸島教授に「まず動物園に行つて、オランウータンを見てきなさい」と言われている。「失敗したら怖い」と思っている、挑戦できる人になってほしいと、久世さんは考えているのかなと思った。だから僕も実際にオランウータンに会いに行つてみようと思つた。

王子動物園のオランウータン、名前はムム。会つてみての第一印象は、大きくて動かないということだった。暮らしている場所は、高さが僕の通う小学校の教室二倍くらいだけど、横幅は半分くらいしかなかった。オランウータンがすむにしては、狭いなと思つた。なぜなら本来ならば、広大な森が、すむ場所だからだ。それにムムは、動物園で飼育員に育てられてきたこともわかつた。動物園に来なければわからなかつたことやしぐさを知つて、実際に見ることは大切なことだと思つた。

でも、僕はそこで疑問も感じた。自然に近いオランウータンを見られる動物園はあるのだろうか、ということだ。調べていく内に、北海道の旭山動物園で、動物本来の動きを見せる「行動展示」をしていることがわかつた。旭山動物園では、「楽しみの場」と「学びの場」であることを結びつけ、行動展示している。具体的には、屋外に高さ十七メートルの柱を二本立てて、その間をロープとレールでつなぎ、野生下の姿を現した。そして、その

前で飼育員が、オランウータンのすむ森林が失われていて、オランウータンが絶滅の危機にさらされていることを説明した。環境問題に関心を持つてもらおうという「学びの場」をつくつていた。実は、僕がこの本を読んで、一番気になつたのが、環境問題について書いてあるところだった。特に「二〇二〇年開催の東京オリンピックの会場となる施設をつくるのにボルネオ島（オランウータンのすみか）で違法に伐採された木材が使われた」という部分を読んだとき、人の身勝手さを感じたし、複雑な気持ちになつた。他にも、オランウータンの赤ちゃんが密猟されて、ペットになっていることも書いてあつた。動物にも、生きる権利があるはずなのに、今の世界では人間が一番に考えられている。僕は、オランウー

タンなどの動物を守るためには「人」と「動物」で区別をしないことが大事だと思う。人間が他の生き物を大切にし、自分勝手にならないようにするべきだと僕は思う。

今回、この本を読んで、動物園に行つてオランウータンを観察したり、わからなかつたことを調べたり、環境問題について考えたりした。僕は久世さんの決断する姿に感動した。これから自分は大人になっていく。僕は挑戦することを常に心がけ、将来の道を決めたい。

「かなしきデブ猫ちゃん」を読んで

金田小学校 五年 大槻 流星

この本は、捨て猫カフェの保護猫がアンナの家族にもらわれ、マルという名前を付けてもらった一匹の猫の話である。

マルはアンナの母のおいしいご飯を食べすぎて、デブ猫になってしまった。そこにスリジエという新しい猫がきて、マルの居場所がなくなってしまった。マルは夢で見た黒猫のマドンナに会うために、家出をした。愛媛県を舞台にマルの大冒険が始まった。

ぼくは、この本と旅行雑誌・分県地図を広げて、マルが行った場所を探しながらおみやげや名物を見てマルと一緒に旅行をした気持ちになった。ぼくは、道後温泉に行つて温泉に入り、坊ちゃん団子を食べたい。

しかし、この本の題名である『かなしきデブ猫ちゃん』のひらがなで書かれた『かなしき』の意味をぼくは読み取ることができなかった。マルは大冒険を終えて本当に悲しかったのだろうか。

国語辞典では『悲しい』は、泣きたいような気持ち。さびしい気持ちになる様子。とあった。また、『哀しい』は、あわれ、いたましい。と書いてあった。マルは、アンナの家では『デブ猫』とからかわれていたが、それ

は愛情の表現である。どこが『かなしき』なのか……。ぼくには読み取れなかった。

母に『気持ちの温度計』があるからマルの気持ちを書きこんで考えてみたら。」と言われた。書きこんでみると、うれしいの所にマルの気持ちがたくさん入ったのである。マルがものすごくうれしかった出来事は、捨て猫カフェからアンナの家にはきとられた時。マドンナに愛の告白。仲間の猫と温泉に入る。アンナの家に戻ったらみんなが泣いて迎えてくれた。どれもこれもマルにとって最高のうれしさであったにちがいない。

ぼくは、『かなしき』の意味を読み取れない。悩んでいたら、母が1冊の古語辞典を貸してくれ、『かなし』を調べて「らん。」と言ってくれた。辞典には『愛し』と漢字で書き、『かなし』となっていた。その意味は、かわいい。心が引かれる。おもしろい。と書かれていた。ぼくは、『かなしき』が『愛しき』だと納得できた。マルは、出会った愛媛の人々に大事にされていた。仲間の猫たちからもやさしくされていた。まん丸で毛がふさふさしているマル。マルは、みんながマルのことを想っていることをわかっていると思う。漢字で『悲しき』と書かれてみると、イメージを想像することができる。しかしひらが

なで『かなしき』と書かれてあるとイメージが想像しにくい。だから、読み手によってイメージが変わり、おもしろいのだと思う。言葉を大切に読み進めていくことのおもしろさを、この本から学ぶことができた。

「ね、マル、大阪に遊びにおいでよ。ぼくが案内してあげるよ。太陽の塔びっくりするよ。そして『悲しい』ときがあったのか、教えてね。まってるよ。」